

◎健康診査の経費

がん検診事業

【 市民健康課 】

【総合計画上の位置づけ】

健やかで心豊かに暮らせるまち

健康福祉:すべての市民が健康で安心して生活を送ることのできる環境が整っているまち

【事業の目的】

対象 検診対象年齢に達した市民

意図 がん等の早期発見・治療のため。

効果 がん等の早期発見、早期治療により市民の健康維持に努めるとともに医療費の抑制につなげる。

【事業の内容】

(1) がん検診事業

- ・大腸がん、肺がん(40歳以上)、胃がん(個別健診:40歳以上10年ごと・集団検診:40歳以上で胃がんの個別検診に該当しない方)、子宮がん(20歳以上偶数年齢の女性)、乳がん(視触診検診:20歳~38歳の偶数年齢の女性・乳房X線撮影と視触診検診:40歳以上偶数年齢の女性)の検診を実施した。

【事業費】

(単位:千円)

当初予算額	予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額
410,146	435,494	431,730		3,764

主な支出内訳

・がん検診事業

臨時的任用職員賃金		1,083
大腸がん検診委託料 26,190人		55,134
肺がん検診委託料 27,975人		190,589
胃がん個別検診委託料 1,784人		33,340
胃がん集団検診委託料 5,356人		20,516
子宮がん検診委託料 7,020人		68,016
乳がん検診委託料 6,951人		43,290
がん検診事業管理事務委託料		2,191
胃がん集団検診予約等一括業務委託料		7,029
がん精密検査追跡業務委託		692
検診結果データ集約等業務委託		8,213

大腸がん検診

区分	受診者数 (一次検査)	要精密検査	がん発見者数
便潜血検査	26,190人	1,694人	53人

肺がん検診

区分	受診者数 (一次検査)	要精密検査	がん発見者数
胸部X線直接撮影	27,975人	416人	20人

胃がん検診

区分	受診者数 (一次検査)	要精密検査	がん発見者数
集団 (胃部X線間接撮影)	5,356人	515人	11人
節目年齢 (胃部X線間接撮影)	1,784人	410人	9人
計	7,140人	925人	20人

子宮がん検診

区分	受診者数 (一次検査)	要精密検査	がん発見者数
子宮頸部細胞診	7,020人	74人	1人

乳がん検診

区分	受診者数 (一次検査)	要精密検査	がん発見者数
視触診のみ	1,186人	133人	1人
乳房X線撮影 +視触診	5,765人	601人	22人
計	6,951人	734人	23人

平成21年度事務事業評価シート

事務事業 No./名称	■サービス部門 健福-44 がん検診事業 □支援部門						
事務事業 単 位	ザイムス コード及び 個別事業 名	0110 がん検診事業					
主管課	市民健康課	関連課	保健年金課、高齢者福祉課				
分野名	健康福祉						
目標 (目標値)	市民のがんの早期発見、治療を図る。						
人口等の データ	データ区分	20年度	19年度	18年度	備 考		
	人 口	176,484人	175,902人	175,051人	・各年4月1日		
	世 帯 数	77,430世帯	76,536世帯	75,611世帯			
運営資源 状 況	決算値	431,730千円	163,745千円	110,768千円			
	(国・県)	0千円	0千円	0千円			
	(負担金等)	0千円	0千円	0千円			
	(一般財源)	431,730千円	163,745千円	110,768千円			
	人員配置数	4.0人	4.0人	2.2人			
	人 件 費	37,462千円	37,380千円	20,633千円			
協働の パートナー	鎌倉市医師会 検診機関	鎌倉市医師会 検診機関	鎌倉市医師会 検診機関				
事務事業 運営経費	総事業費	469,192千円	201,125千円	131,401千円			
	市民1人当 りの経費	2,659円	1,143円	751円			
	対象者1人 当りの経費	—	—	34,112円			
20年度事務事業の変更点(新規・廃止・縮小した個別事業)/事業仕分けの視点による妥当性の評価							
個別事業名	変更額(千円)	事業の変更点・変更理由			妥当性※		
65歳以上のがん検診	221,625	老人保健事業から変更・統一			④	※妥当性の評価 ① 必要性なし ② 民間 ③ 国・県 ④ 現行どおり(鎌倉市)	
指 標	評 価	年 度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)
大腸がん検診受診率	○	目標値					
		実績値	36.30%	42.70%			
指 標	評 価	年 度	19年度	20年度	20年度	21年度	最終年度(年度)
肺がん検診受診率	○	目標値					
		実績値	42.00%	50.00%			
指 標	評 価	年 度	19年度	20年度	20年度	21年度	最終年度(年度)
胃がん検診受診率	○	目標値					
		実績値	11.40%	13.20%			
指 標	評 価	年 度	19年度	20年度	20年度	21年度	最終年度(年度)
乳がん検診受診率	△	目標値					
		実績値	20.90%	28.60%			
指 標	評 価	年 度	19年度	20年度	20年度	21年度	最終年度(年度)
子宮がん検診受診率	△	目標値					
		実績値	20.60%	28.40%			
評価 ◎:目標を達成 ○:目標に向かって前進している △:横ばい ×:後退している							
ベンチマーク(県内外自治体や民間団体との比較値)							
団体名							

平成21年度事務事業評価シート

創意・工夫・課題等改善状況	課題・問題点	<p>(20年度事務事業を実施するうえでの課題・問題点は、どのようなことでしたか)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要精密検査となりながら、精密検査を受けていない者に対して、受診勧奨ができるよう体制作りを進めたが、対象者数が相当数いることから、思うような受診勧奨ができなかった。 ・本来検診の対象者ではない者(既往歴があったり、経過観察中の者)が検診を受診し、精密検査を受けないという状況が多くみられた。 ・検診受診率において、20～50歳代までの受診率が65歳以上と比較して低い。
	創意・工夫・課題等の改善点 20年度の成果	<p>(課題・問題点についてどのような創意工夫、改善をしましたか。また、どのような成果がありましたか)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受診券発送時の同封物や鎌倉衛生時報等など、できるだけ多くの場面で「既往歴があったり、経過観察中の者」が検診対象者でないことを周知した。 ・医療機関において、検診時の説明を徹底する。 ・受診券に前年度要精密検査対象者だとわかるように◆印をつけ、検診実施前に医師と充分話し合いができるようにした。
	未解決の課題・問題点	<p>(20年度事務事業の取組において対応(解決)できなかったものはどのようなことですか)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マンモ併用検診の受診者が増加し、検診機関で予約が取れなくなり状況があった。 ・子宮頸部がんの若年層の罹患が増加しているにもかかわらず、受診率が上がらない。
	今後の方針 (対応・改善)	<p>(上記対応できなかった課題・問題点について今後どのように対応(改善)していきますか)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検診受診時に、必ず医師から「要精密検査」になったら精密検査を受診するよう説明してもらうよう徹底する。 ・マンモ併用検診の検診受け入れの強化に向け、検診機関と調整する。 ・若年層の集まるイベント会場などでの事業実施を検討する。

一次評価(課長評価)

今後の方向性	A:充実又は拡大 C:統合又は縮小 E:事業完了 B:現状のまま継続 D:廃止又は休止	A	改善の必要性
	特に若年層を中心に受診率の向上を図る必要がある。また、要精密検査受診割合を高めるため、引き続き啓発、周知を図る。		有
担当課長氏名:	市民健康課長 相川 誉夫		

二次評価(部長評価)

今後の方向性	A:充実又は拡大 C:統合又は縮小 E:事業完了 B:現状のまま継続 D:廃止又は休止	A	改善の必要性
	検診受診率と、精密検査受診率の向上を図る。		有
担当部名	健康福祉部	部長名	石井 和子